

第 14 回定例教育委員会 会議録

開催月日 平成 30 年 2 月 7 日 (水)

開催時間 午前 10 時 00 分から午前 11 時 48 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 守屋 守
教育長職務代理者 飯室 元邦
教育長職務代理者 和田 一枝
委員 野田 清紀、武者 稚枝子、三塚 憲二

出席職員 教育次長 若林 一紀
教育監 渡井 渡
教育監 奥田 正治
学力向上対策監 佐野 修
次長(総務課長) 末木 憲生
福利給与課長 諏訪 桂一
学校施設課長 望月 啓治
義務教育課長 嶋崎 修
高校教育課長 手島 俊樹
高校改革・特別支援教育課長 成島 春仁
社会教育課長 岩下 清彦
スポーツ健康課長 前島 斉
学術文化財課長 百瀬 友輝
国体推進室長 三井 勉
総務課総括課長補佐 本田 晴彦
政策企画監(総務課課長補佐) 武井 俊人
総務課課長補佐 若月 衛
総務課課長補佐 望月 勝一
総務課副主幹 保垣 利恵

義務教育課 主事 雨宮 俊祐
高校教育課 主幹・管理主事 初鹿野 仁
スポーツ健康課 課長補佐 逆瀬川 慶浩
" 課長補佐 梶原 宏之
" 副主幹・指導主事 山本 晃司
学術文化財課 文化財指導監 村石 眞澄
国体推進室 国体推進監 樋 紀宏

傍聴人 0 名

報道 1 名

会議要旨

(教育長開会宣言)

報告事項(11)、その他報告(20)については、個人情報に関するものであるため非公開としたい旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

1 議 案 第 36 号 平成 29 年度 2 月補正予算(案)概要 [説明] 総務課

守屋教育長 繰越明許費とあるが、単に 2 年以上かかるから翌年これだけ必要だと示しているものである。単年度で使い切るのが大原則であるが、2 年にまたがる場合にはあらかじめ明らかにしておくということになる。このようにあらかじめわかっているものと、突然大雨があって工事ができなくなってしまったというような事故繰越といった二つに分かれている。

野田委員 性質別の表で見るとほとんどが減額になっているが、当初予算と比してどうしてこんなに差がでてるのか。

末木課長 予算の執行にあたって経費の節減に努めており、執行残が出ている事業がある。それらを 2 月議会で補正をかけて、予算を修正しているということもあり、こういった累積になっている。

- 守屋教育長 特に人件費は一定のルールである、前年の10月1日現在の人員数で機械的に算出しているため、職員数が減ったり、給料が下がったりするとがくっと人件費が下がる。その調整を行うので、増減が大きくなる理由のひとつになっている。
- 末木課長 特に今回は退職手当の関係で5億4千万円ほど減額しているのです、これが非常に大きくなっている。
- 三塚委員 他の事業の執行率は予定どおりか。
- 末木課長 概ね予定どおりだが、100万円以上の事業についていくつか減額補正を行っている。
- 守屋教育長 全額使わないと翌年度予算をつけないという時代があったが、今はしっかり残すような時代になっているので減額が多くなっている。

【原案どおり決定】

第 37 号 平成30年度当初予算(案)概要

[説明] 総務課

- 野田委員 評価すべき項目、あるいは減額すべきだという理由で、昨年度と比較して50パーセント増または50パーセント減といった事業があればその理由と合わせ教えてほしい。
- 末木課長 特に細かく説明した基本方針2の「学力向上」について、新規の事業を3つ盛り込み、予算的にも昨年度に比べて3千万円ほど伸びている。学力向上に対する先生方の取り組みをかなり評価している。金額的にそれほど大きくはないが、基本方針8でもふれた「子どもの貧困対策」についてもさらに施策の強化・推進を図っていく。
- 野田委員 どのくらい増やしているのか。
- 末木課長 金額で言えばそれほど大きくはなく、トータルでも284万円程度である。
- 守屋教育長 先日の山日新聞の一面に掲載されたのが基本方針2の「学びのサイクル改善事業」というもので、単元ごとに全県一斉に試験を行い、それぞれの学校の長所、短所を明らかにし、その単元が終わったところですぐに先生が対応してもらおうことができるようになるものである。この「学びのサイクル」というのはおそらく全国でも実施しているところは少なく、かなり速報的な分析ができるのではないかと思います。特に小学校は全国平均をずっと下回っているのです、来年の学力向上を強化する事業の目玉かなと思っている。
- 和田委員 単元末ごとのテストは今までも学校ごとに実施しているが、それとは別に県で作った問題をやるということなのか。
- 嶋崎課長 小学校では単元というまとまりがあるが、そのあとにテストを行っている。それを10分程度で補う形でフォローできるような内容の問題を県から配信、採点し、平均点の分布や状況をパソコン上で分かるような形になっている。
- 和田委員 従来のもものは学校ごとでもやっているが、そのほかにテストをするということか。
- 嶋崎課長 プラスアルファで10分程度、お願いするものである。
- 守屋教育長 県が問題を作って各学校に配布をしてやってもらう、そして分析をしてまた返すというやり方でいいか。
- 嶋崎課長 テキストにして各学校に配布する。

- 守屋教育長 全国比較をされるとマスコミに取り上げられることが多く、保護者も不安を覚える。自分の子どもの学校の弱点が分かると、80点取ったとしても全県平均が90点だとまだ弱いのではないかとということがわかり、それらがわかるように、またわかりやすくするようにやっていく。
- 飯室委員 先日、インターハイのフィギュアを観戦した際にいろいろ話を聞いた。協会の人によると、1千万円ぐらいの電気代がカットされてスケートリンクが3ヶ月間使用できなくなり、その期間は違う所に行って練習することであった。1年間通年で練習ができれば、県外からも練習に来てもらうこともできる。また、リンクのまわりに広告をとったりすれば3ヶ月の電気代1千万円に充当できたりする。予算がないから3ヶ月間使えないというのはさみしいので、今年は無理としても、来年からは何か考えていただきたい。
- 前島課長 県の縦割行政で申し訳ないが、小瀬アイスアリーナは都市公園内での管理となるので、スポーツ健康課は関与できないが、3ヶ月間他県で練習していることは承知をしている。1年間継続して練習してもらいたいというのはスポーツ健康課の考えになるが、管理している都市計画課としても管理費の問題があり、なかなか難しい。考え方とすればできれば私も1年間継続使用できればと思っている。
- 和田委員 学力向上については増額して、さらに向上させていくということだが、8ページ「いじめ・不登校対策事業費」が1千万円ほど減になっている。スクールカウンセラーの活用事業費やスクールソーシャルワーカーの活用事業費がかなり占めていると思うが、昨年度から小学校にカウンセラーを配置をしていただき、かなり学校がよくなってきている。早期対応が可能になり、保護者もスクールカウンセラーと話をする時間を持てるようになったと聞いているが、これが減になっている。どうしてなのか。
- 嶋崎課長 国の補助を受けている事業なので、国の予算の関係で多少減額になっている状況がある。
- 和田委員 せっかく小学校にもスクールカウンセラーが配置され、また、現に困っている学校もあることから配置されていない学校にも配置され、今後増えていったらいいなと期待していたが。
- 武井企画監 「いじめ・不登校対策事業費」の減額内容は、甲府の適応指導教室のエアコン整備に要した経費で、この事業費の減額の主な部分を占めている。
- 和田委員 適応指導教室の廃止が30年度から都留、31年度が韮崎、32年度以降が石和となっているが、その浮いた費用はどういったところに回してもらえるのか。
- 守屋教育長 予算の作り方として教育委員会に枠があるわけではなく、事業の善し悪しで県庁全体で見えていくものになっている。これが減ったから別のものへと無条件で予算が認められるものではない。我々も減った場合には、それに代わる良い事業を作って認めてもらうというやり方になっている。31年度に廃止されたあとにどのように体制を整えていくかという予算を出して認めてもらうような努力を今からしていく。来年度の10月ぐらいまでに決めて予算を要求をしていくという形になる。
- 和田委員 市町村で準備が十分できないというような財政的な問題がある場合は、県からも補助をしていくという話も聞いたことがあるが。
- 守屋教育長 財政的支援については、義務教育は市町村の役割になるので、一元的に県が財政的支援をするという前提で行うわけではなく、様々な支援の方法があるので、来年度上半期にどういうことができるかを検討していく。
- 和田委員 教育機会確保法の中にも県と市町村の役割や財政面のことも書かれており、不登校の子どもたちやいじめの問題が減っているわけではないので、充実していただけるといいなと思うので、よろしくお願ひしたい。

【原案どおり決定】

第 38 号 特別職の職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例

[説明] 総務課

【原案どおり決定】

第 39 号 教育委員会の活動状況報告書について

[説明] 総務課

【原案どおり決定】

第 40 号 山梨県職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例等の一部を改正する条例

[説明] 義務教育課

- 野田委員 1日につき2時間の範囲内で勤務しないことができる「子育て時間」の創出については問題ないが、現状でも人員が足りないなか、そのフォローはどうやっていくのか。
- 嶋崎課長 各学校の工夫で、例えば、教務主任がその時間に入るなどというような対応になっていると思う。それぞれの学校によって違いはある。
- 野田委員 きちんとした形は示していないので、それぞれに対応を任せるしかないとなると、大変なことなのではないか。
- 守屋教育長 2時間空いたところに人を2時間分注ぎ込むというデジタル的な対応をしていないので、教員に積み重なり、困っているというところは確かにはある。国からその分の人員が配置されるわけではないので、難しいところはある。
- 嶋崎課長 小中学校では空き時間をうまく利用するなどの形になっている。
- 野田委員 中学校だと教科ごとにやりくりをすれば何とかかなりそうなものだが、小学校の場合はそれが無いので大変。なおかつ小学校では英語が始まり、物理的に無理なのではないか。決めたのは良いが、実現が難しい。
- 和田委員 同じことを思っていて、決めただけで実効性があるのか疑問に思う。特に小規模校ではいっぱいいっぱいなところもあり、教務主任も授業を持っている状況なのでかなり厳しいのではないかと。会議等もあるが、子どもたちが帰ったあとの時間を活用するくらいしかないのではないかと。2時間休暇を取ることをなかなか言い出せないところもあるので、何とか実効性のある方法を考えていただきたい。また、人員の問題もあるので、今後の課題ということで検討してもらいたい。せっかくいい制度ができて使えないのはもったいない。
- 野田委員 現状ではどのぐらい利用があるのか。
- 嶋崎課長 具体的な数はわからないので、次回報告する。
- 武者委員 介護に関するところでもとても取れない、言い出せないということは何度か聞いたことがある。取りやすい、言いやすい、出しやすいような状況を作っていたらいい。
- 守屋教育長 これらの時間の実績を積み上げ、また、学習指導要領の改訂に対応する時間やその他増加する業務に対応をする時間等を積み上げておくと、人を増やしてくれといった国に対する要望においては説得力があるので、ぜひそれをお願いする。
- 嶋崎課長 周知に努めたい。
- 野田委員 小規模校等では物理的に難しいので、そういう先生をフォローできる体制の整ったところに異動させるなどの対策も必要か。

- 和田委員 2時間は無理でも30分は取得できるようにするとか、また、取得できないのならばなぜ取得できないのかというところをきちんと調べていきながら、国なりに話をしていくということが必要ではないかと思う。また、職場の理解がないと難しいことなので、その該当者だけでなくみんなで共有していく課題があると思う。
- 飯室委員 保育所に入れないことも大きい問題である。民間では、私的な施設に入った場合は、その差額を援助するといったシステムがある。お金をかけることで授業が欠けることがなく円満に回るとこともあるので、そういうところも考えていただきたい。
- 和田委員 それに係わって、育児休業の再度の取得や延長があるが、上限は3年ということになっている。3年取得すると復帰を考えたときに非常に難しいケースがあり、辞めてしまう人もいると聞いている。保育所に入れるようにすることが重要なことだと思うので、よろしく願いたい。

【原案どおり決定】

- 第41号 山梨県指定文化財の指定について
第42号 山梨県指定文化財の指定について
第43号 山梨県指定文化財の指定について
第44号 山梨県指定文化財の指定について
第45号 山梨県指定文化財の解除について
委員の了承を得て、第42号～第46号について、一括説明とした。
〔説明〕学術文化財課

- 野田委員 非常に立派な資料でいろいろ書いてあるが、我々にはよくわからないところがある。この指定はなぜ必要なのか、こういう特徴があるから必要であるというのを一覧表で示してくれたほうが、細かい資料を作っていただくよりも我々にはわかりやすい。

- 百瀬課長 一覧表にしてわかりやすくまとめさせていただく。

【原案どおり決定】

2 報告事項

- (11) 指導が不適切な教員について
(非公開)
〔説明〕義務教育課・高校教育課

【了知】

3 その他報告

- (17) 「新やまなしの教育振興プラン」の目標となる指標の達成状況について
〔説明〕総務課

【了知】

- (18) 青少年保護育成のための環境浄化に関する条例の一部を改正する条例
〔説明〕社会教育課

【了知】

- (19) 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
〔説明〕スポーツ健康課

- 武者委員 全体的に改善しているということで評価したい。「健康・体力づくり一校一実践運動」の効果があったということだが、引き続き行って行くのか。
- 前島課長 引き続き行って行く。
- 武者委員 来年度に向けて、どこを強化をして行っていこうと考えているのか。
- 前島課長 小学校では全国平均を上回っていない。「目指せ！チャンピオン事業」のなかで縄跳びや馬跳びを各学校クラス単位で選び、何回できたのかを報告いただき、それで順位付けをして、3位までを表彰するという事業を今年度から行っている。大体28パーセント程度の学校が参加しているが、来年度はぜひ半分以上が参加して体力の定着を図っていきたいと考えている。
- 飯室委員 視点が違うが、先日、東京で教育長教育委員会議があり、その際に参考になるアイデアが埼玉県の委員から出された。学力検査もそうだが、運動能力調査も5年生や2年生に決まっている。埼玉県は学力検査もその学年を3年間追いかけており、それによりかなり成績が伸びたとわかる。5年生を調査したら、翌年6年生を調査し、同様に中学2年生でやったら、翌年、3年生を調査する。同じ集団を追いかければ、翌年はかなりそのレベルが上がったというのがわかり、次に繋がると思う。埼玉県のやり方はなかなか素晴らしい。これらの調査はたいてい当年で終わってしまうが、作業は大変かもしれないが、そういうデータがあるとかなり前進すると思う。参考までに。
- 前島課長 この全国調査では小学校5年生と中学校3年生の全国順位が出ているが、本県では小中学校全ての学年でこの体力測定を行っている。飯室委員がおっしゃられたこの学年を追うということではできると思う。その傾向を見ると徐々に、今の4年生が体力的にはかなり伸びてきているので、来年度の全国調査はもう少し伸びるのではないかと予測している。
- 守屋教育長 全国学力調査と県単独の調査があるから、学力調査についても同様にしている。
- 嶋崎課長 学年ごとに2年間のスパンではあるが、行っている。

【 了 知 】

- (20) 平成29年「やまなしスポーツ賞」について
(非公開)
[説明] スポーツ健康課

【 了 知 】

- (21) 冬季国体及び冬季インターハイについて
[説明] 国体推進室

- 和田委員 高校生が選手以外の部分でも活躍していた。開会式に出席したが、音楽隊の高校生の態度が素晴らしいと感じた。1時間程度、会場で式が始まるまで着席しながら正面を向いて微動だにせず、またおしゃべりもせず。大変辛い1時間であったと思うが、素晴らしく、また、受付の子たちも声も大きくてがんばっているなど感じた。
フィギュアスケートでは小学生が招待されていたが、静かに観戦したり応援していた。なかなか本物のフィギュアを見る機会はなく、テレビ観戦に比べいい刺激になったと思った。
- 三井室長 スピードスケートは地方大会が毎年恒例のように開催されているが、全国のトップレベルの選手が集まるというのは数少ない機会であったと思うので、児童生徒にもいい経験になったのではないかなと思う。これで競技人口が増えるともっといいところではあるが。

【 了 知 】

{ 教育長閉会宣言 }